

報 道 資 料

平成22年8月11日（水）

件 名 岩国基地に関する協議会（第4回）の開催について
概 要 このことについて、下記のとおり開催しましたのでお知らせします。

記

1 日 時 平成22年8月11日（水）14：00～15：45

2 場 所 岩国市役所 特別会議室

3 主な出席者

岩国市：岩国市長	福 田 良 彦（ふくだ よしひこ）
岩国市副市長	白 木 勲（しらき いさお）
基地政策担当部長	村 田 光 洋（むらた みつひろ）
国：中国四国防衛局長	辰 己 昌 良（たつみ まさよし）
中国四国防衛局企画部長	藤 代 誠（ふじしろ まこと）
山口県：総務部理事	渡 邊 修 二（わたなべ しゅうじ）

4 概要

（1）協議会確認事項の取り組み状況

① 航空機騒音の測定体制

- ・ 中国四国防衛局は、新たに新港地区（一文字終末処理場）に騒音測定器を設置し、平成22年4月1日から測定開始。また、新滑走路両端付近の2か所にも設置し、同年5月29日から測定開始。
- ・ 旧滑走路両端の2か所の騒音測定器は、滑走路移設に伴う状況把握のため、当分の間存置し、測定継続。

② 航空機の飛行時間に関する事項

- ・ 平成21年7月から平成22年6月までの1年間の時間帯別航空機騒音発生回数のデータを見る限り、米海兵隊岩国航空基地は、岩国日米協議会における確認事項を最大限尊重していると考えられる。

③ 日米親善交流事業の広報等

- ・ 『広報いわくに』において広報を実施。
平成22年2月27日、「風作り・日米料理教室等」

④ 工事関係車両による渋滞緩和対策

- ・ 現在、渋滞が緩和されたと考えられることから、交通誘導員の縮小及び借り上げ駐車場の運用を一時的に取り止めている状況。
- ・ 中国四国防衛局は、今後とも各種対策を継続し、渋滞緩和に努力。

⑤ 街頭緊急通報システム（通称：スーパー防犯灯）の運用状況

- ・ 基地正門付近から川下出張所区間に7基設置。
- ・ 平成22年3月26日、市と岩国警察署は、防犯灯の設置、運用及び維持管理について協定締結し、運用開始。
- ・ 現時点において、事件による通報件数は0件。

（2）協議事項

① 新滑走路運用後の状況

ア 滑走路移設事業による騒音の状況

- ・ 中国四国防衛局・山口県・市は、市内に騒音測定器を21基設置（局：12基、県4基、市5基）し、常時、航空機騒音を測定している。
- ・ 新滑走路の運用開始後、6月期における航空機騒音の状況は、滑走路南北端にある2基を除き、いずれも軽減の傾向にあることが確認された。
- ・ 騒音状況の評価については、測定期間が短いことから、確定的に述べることは困難であり、今後も測定を継続し、騒音状況の把握に努める。

イ 上空制限

- ・ 市において、上空制限の「概念図」を作成した。
- ・ 滑走路が約1km沖合へ移動したことから、以前よりも緩和された。
- ・ 今後とも、日米双方の安全を確保するため、工場等の高層建築物の建設計画がある場合には、昭和40年7月20日に締結された覚書に基づき、市と中国四国防衛局は事前に十分協議を行う。

② 航空機の騒音規制措置

- ・ 市は、日米両政府間で正式な協議を行った上で、明確化することを要望した。
- ・ 市の要望に対し、中国四国防衛局は「米軍の運用に関わることから、非常に厳しいものがあると思うが、市の強い要望を踏まえ、本省と調整してまいりたい」と回答した。
- ・ 県は、今後も岩国日米協議会の確認事項を最大限遵守するよう要請した。

③ 住宅防音工事の拡充

- ・ 中国四国防衛局は、航空機騒音に係る重点施策として、現下の国の厳しい財政事情の下、住宅防音工事の更なる促進に努力する。
- ・ 中国四国防衛局は、住宅防音の一層の促進を図るため、防音工事の未実施世帯を対象としたアンケート調査を行った。
- ・ アンケート調査で回答の無かった世帯等については、戸別訪問等により意向確認等の調査を実施する予定である。
- ・ 市は、住宅防音工事の拡充について強く要望し、これに対し、中国四国防衛局は「市の強い要望を踏まえ、本省と調整してまいりたい」と回答した。

④ その他

ア 事件・事故への適切な対応

- ・ 中国四国防衛局は、「米軍人、軍属との交通事故などで損害を受けられた方へ」のリーフレットをホームページに掲載している。
- ・ 中国四国防衛局の広報誌に掲載するとともに、地方公共団体及び警察署の各窓口と同リーフレットの常備と損害を受けられた方への配布を依頼する。
- ・ 県は、米兵による事件・事故が続いて発生していることから、県民の安心・安全の観点から適切な再発防止策を講じるよう要請した。

イ セーフティブリーフィング

- ・ 今年秋に開催される米軍主催のセーフティブリーフィングにおいて、昨年に引き続き、市長による説明の機会が得られるよう、中国四国防衛局が米軍と調整を行う。

ウ 日米親善交流事業

- ・ 中国四国防衛局は、今年度の事業実施に当たり、山口県及び市の協力を求めた。
- ・ 今年度の事業は、市が提案した「音楽会」を実施する方向で調整する。

エ 周辺財産を活用したグラウンドゴルフ場の整備

- ・市は、民間空港再開関連事業を円滑に実施していくため、防衛省の周辺財産を使用し、スポーツ広場として使用している旭広場の代替施設（グラウンドゴルフ場）の整備を行っている。
- ・市は、今後も基地周辺住民の生活の安定及び福祉の向上に寄与するため、周辺財産の有効活用を検討し、中国四国防衛局は、できる限り協力する。

オ 米軍再編交付金の活用状況

- ・市は、再編交付金を活用し、こども医療費助成事業、市立学校等施設耐震化推進事業、中学校給食共同調理場整備事業等の事業を実施してきた。
- ・市は、引き続き再編交付金を活用し、基地周辺地域の住民の福祉の向上に寄与するための措置を講ずる。
- ・市は、再編交付金を活用した事業の円滑な実施が図られるよう、基金の造成の多様化を要望し、中国四国防衛局は「市の要望を踏まえ、本省と調整してまいりたい」と回答した。

(3) 市長コメント

新滑走路の運用開始後の最初の協議会であったことから、まず、運用後の状況について協議を行った。

航空機騒音の状況については、国・県・市のいずれの測定データからも、軽減の傾向にあることが確認されたが、騒音状況の評価については、運用開始後の期間が短く、確定的には述べられないことから、今後も測定を継続し、一定期間の経過後に判断したいと考えている。

また、上空制限については、国からの説明に基づき、市において「概念図」を作成したのでお知らせする。

安心・安全対策の中で市民にも大きな関心のある航空機の騒音規制措置については、日米両政府間で正式な協議を行った上で、その明確化を要望した。これに対して、中国四国防衛局は「本省と調整していく」とのことであった。

特に、滑走路運用時間の短縮については、議会でも全会一致で決議もされており、市の最重要課題と位置づけている。国も真剣に取り組むべきであると考えており、本日を機に、国において速やかに対応されることを期待している。

住宅防音工事について、国が促進の努力をしていることは評価する。他方、住宅防音工事の拡充については、残念ながら今回も具体的な成果は得られなかったが、こうした課題については、中長期的な視点に立って粘り強く取り組むべき課題であると認識しており、今後も継続して国としっかり協議し、地元の実情に即した対応がなされるよう引き続き努力したい。

本年4月以降、岩国基地所属の隊員が関与した事件が連続して発生しており、このような事件が繰り返されることのないよう、安心・安全対策の一環として、セーフティブリーフィングは今年度も継続して参加し、直接隊員に話しかけたいと考えている。

今後とも、市民の安心・安全の確保に全力を傾注し、多くの市民に納得のいくような結果を出すべく努力してまいり所存である。

岩国市総合政策部基地政策課 TEL 0827-29-5024 (直通)

上空制限概念図 (作成:岩国市)

